

# 2004年インド洋地震のインドネシア・スマトラ島および タイ国インド洋沿岸における津波のようす-2

東京大学地震研究所・地震火山災害部門

都司嘉宣(つじ・よしのぶ)

## 9. Banda Aceh 西海岸の調査

### 9-1. 西海岸Lhoknga村における津波来襲前後の衛星写真



津波後で茶色に変色した部分は津波が浸水した事による植物の枯れによるものである。西海岸のLhoknga村では、4つの集落が津波により全滅した。

### 9-2. 西海岸での津波による建物の被害



津波によってレンガ作りの家が破壊された。この周辺は見渡す限りこのような光景が広がっていた。

### 9-3. われわれの調査での最高津波遡上点(34.9m)



われわれの調査で判明した、34.9mの津波遡上高があった谷。この値はわれわれの調査の中で最高の値である。植物が津波によりなぎ倒された部分と生き残っている部分の境界線が明確であり、津波が谷を駆け上がっていったことがわかる。

### 9-4. 最高遡上点から海を見た図



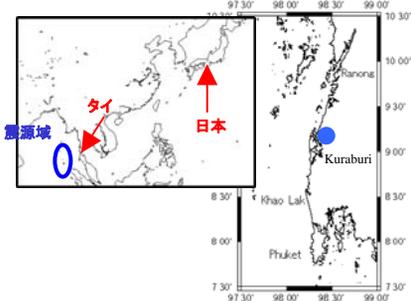
最大遡上点である34.9mのところから海を眺めた写真。低地に小さく見える車などから、きわめて高い位置であったことが実感できる。

### 9-5. 津波浸水の境界線



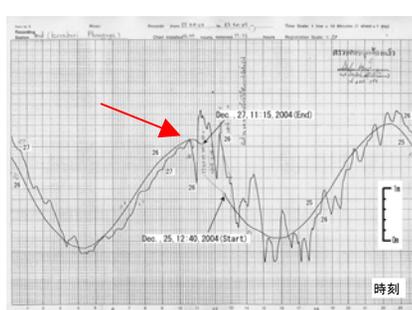
津波により浸水した部分は、あとかたもなく流され土が露出しているのに対し、浸水しなかった部分は何事もなかったかのように青々としている。写真の矢印部は人間である。これと比較して津波の高さはその大きさに驚きを隠せない。

## 10. タイ国の津波浸水調査



われわれは、インドネシア・スマトラ島だけではなく、タイ国インド洋沿岸も津波の状況を調査した。調査範囲は図のように、南はPhuket(プーケット)島から北はミャンマーとの国境であるRanongまでである。同時に検潮所の記録も入手した。

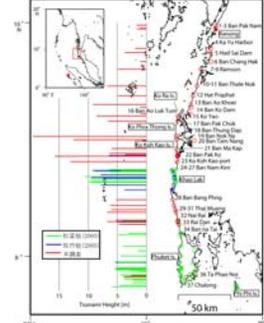
## 11. タイ国Kuraburiでの検潮記録



タイ国Kuraburiでの検潮記録である。

26日の午前10時40分に引き波からはじまっていることがわかる。また、1時間程度の間に津波が押し引きをしていることがわかる。

## 12. タイ国の津波のようす



われわれの調査(赤)および松富・他(2005)、佐竹・他(2005)によるタイ国インド洋沿岸の津波浸水高分布

18番目のBan Thung Dapで19.6mの高さがあったことがわかった。また、ここを中心として南北に行くに従い津波の高さが小さくなることもわかった。

## 13. Ban Thung Dapでの津波高さ



Ban Thung Dapでの津波の痕跡。津波により木が折れたことがわかる。ここでの津波の高さは、19.6mと測定された。

## 14. Ban Nok Naでの被害状況



Ban Nok Naでの津波被害状況

津波により家屋の壁や屋根まで打ち抜かれている。津波はこの屋根の打ち抜かれたところまで来たと判断でき、その高さは6.7mであった。

## 15. Khao Lakでの船体打ち上げ



Khao Lakにおける、津波による船体打ち上げ。

海岸線から約1kmのところに警察の船が打ちあがっていた。

船の長さは約20mである。